J.C.O.S.M.

Vol. 9, No. 1 (Jan. 1979)

1979年1月1日発行
（通 巻 第 45 号）

全科協ニュース

全国科学博物館協議会
東京都台東区上野公園
国立科学博物館内
〒110
Tel.03-822-0111(大代)

おもな内容：◇年頭にあたって ◇新しい展示 地震と建物のゆれ方 神奈川県立青少年センター ◇開館満20周年記念天文施設見学ツアーについて(2) 五島プラネタリウム ◇会員館園の紹介 鳥取県立博物館

年頭にあたって

全国科学博物館協議会理事長 福田 繁

昨年は日本博物館協会の50周年を迎え，11月20日，皇太子殿下並びに同妃殿下をお迎えして盛大に記念式典が挙行されたことは，まことに御同慶に堪えないところであります．

特に感激いたしましたのは，異例の祝賀パーティーへの御出席で，地方の博物館の館長等と親しくお言葉を交わされたことであります．私が傍らで見ておりますと，両殿下が地方にお出でになった折にお立ち寄りになった博物館の多数の人々と親しくうちとけていた御様子でお話がはずんでいたようです．次々に御挨拶申し上げる館長などのお相手で，なにも召し上がる暇もない御様子で恐縮いたしましたが，地方から出席されたこれらの人々は非常な光栄に大へんよろこばれたと思います．

また，皇太子殿下のお言葉は，われわれ博物館人が平素思っていたことを卒直に御指摘になった感がありましたが，その中で「わが国の博物館は充実してきたが，博物館における調査・研究活動の面，またその資料を博物館以外の研究者にも提供するという面においては，必ずしも十分ではなかったように思う」という趣旨のことがあったと記憶します．

このことは正しく肯綮に当たった思いで感銘を受けました．博物館の基本的任務の一つである調査・研究の面がおろそかになっては，博物館として社会の要請に応えることはできないと思います．それには博物館の学芸員の責任が重要であると考えます．

全科協加盟の館園に学芸員が少ないことは現実の問題として，その発展のための支障となっております．このため社会教育研修所で毎年学芸員資格賦与の目的で研修会を開催していますが，僅か1か月程度の研修会で調査・研究能力を高めることは，とうてい期待できません．既に資格をもっている学芸員の資質向上を図るためのより高度の研修を頻繁に実施する必要があると思います．

昨年の日博協の全国大会においても，この問題が取り上げられ，「学芸員の資質向上をはかり併せて待遇改善を促進すること」の決議がなされました．これは昨年だけでなく例年出されていた問題であります．決議の表面には現れていないが，学芸員は少なくとも大学の修士課程の資格が必要だという意見が度々出されております．

このことは学芸員の養成制度の根本にかかわる問題でありますから，直ぐ実現するとは思われませんが，ここ数年の内にはこの方向に踏み出していく必要があると考えます．

諸外国の主要博物館のキュレターと呼ぶ人々は大体大学の修士課程か博士課程を終えた者ばかりであり，これを中心として，調査研究はもちろん，企画・管理面までの責任を負って運営されているのが普通であります．

今や国際化時代になって，それぞれの館園が，国内的だけでなく，諸外国の類似の博物館等と情報や資料の交換を行い，また出来れば人の交流を図ることが必要でありますから，国際的に大いに進出することが望まれます．この場合に中心となる者は学芸員であるから，それぞれの館園が外国からの情報や資料をよくこなし，また海外の博物館からの調査研究に対する受入体制も整備することが必要であります．マンツーマンで国際交流が促進されれば，きっと得るところがあると確信します．

終わりにのぞみ加盟館園の御発展を祈ります．

年頭にあたって

アリタキ・アーボレータム園長　有瀧龍雄

昨年は1月と9月の2回，中南米に参り，サンパウロ，ブエノスアイレスおよびリオデジャネイロの各植物園，フロリダのエバーグレース国立公園などを訪れました．職員（学芸員）も8月から9月にかけてインド各地へ出張，山地の植物調査と仏跡を視察しました．本年は昨秋から始めた植栽植物の配置がえと毎月テーマを決めて研究会の開催を続行する予定です．

伊良湖自然科学博物館長　伊藤　務

昭和51年度から実施してまいりました当館の5か年計画「渥美の古代史を探る」も，いよいよあと2回となり今年は第4弾として「渥美のやきもの展」(仮称)を開催いたします．

今回の「渥美のやきもの展」(仮称)は，渥美半島に残る数多くの遺跡のひとつであり，国宝「秋草文壺」を産んだ渥美古窯にスポットをあて，そのルーツを探ろうというものです．

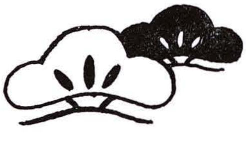
今回もまた，会員各位の皆様には，今まで同様御理解御協力を賜りますようお願い申し上げます．

NHK放送博物館長　太斎嘉行

今年は，さらに一層斬新な企画で，みなさんに親しまれ，役立つ放送博物館にしたいと思っております．毎週土，日曜に行っている「NHK番組を見る会」も記録，教養，芸能などの各分野から好評な番組を選び上映し，祝日に実施している「文化財ライブラリー資料公開」もより多くの関心あるテーマをとりあげ，また毎月の特別展示「今月のコーナー」や常設展示も充実させるなど，来館者の期待にそえるようにいたしたいと思います．

愛媛亜熱帯植物園長　窪田義直

さて当園が本年の計画は昨年に引続き園内に目標3万本のマンジュシャゲを採集移植に努力しており，これが開花したら実に壮観だと想像しております．また，これを機会に昔懐しい花木類が現在農家の庭先で絶滅寸前の姿を見かけるので，一種類でも多く譲って頂き，園内で育成して後の世まで残してやりたいと考えております．



科学技術館長　久保俊彦

当館は本年で開館15周年を迎えるに至りましたが，これも皆様の御指導，御鞭撻の賜物と，心より感謝しております．私は，昨年6月，館長に就任致しましたが，急激に多様化が進む社会の中で，先輩諸氏の御努力を引き継ぎ，かつ新たな社会のニーズに応えてゆくためには，多くの困難が伴うものと覚悟をしております．皆様方のより一層の御指導を賜りますよう，よろしくお願い申し上げます．

香川県自然科学館長　淀谷秀雄

開館10周年を迎え，本格的な香川用水の導入，五色台子供館の建築，学習室の不足解消など記念すべき諸整備を着々と実現したい．瀬戸大橋架橋地点をみおろす立地条件を生かして新しい学習素材を開発するとともに，中学2年生を対象にした3泊4日の集団宿泊学習を中心として，幼稚園の自然保育，小学校の校外学習，一般来館者への資料提供など積極的に資料・素材の充実をはかり，本館のもつ学習館としての特性を最大限に活用したいものと思っております．

神奈川県立青少年センター館長　渡辺猛男

昨年の航空機導入による航空科学教室の設定，電子顕微鏡とテレビ放映によるミクロの世界の紹介，地震模型等の整備は展示室に威力を加えましたが，社会状勢の変化，科学技術の進歩が著しい中で，時代に即応した魅力ある館とするために17年間にわたる科学展示の総点検を行い，今後の展示のあり方を十分検討し，一層の充実を図りたいと考えています．

また，今年は，国際児童年にも当たるので，「親しみやすさ」をモットーに，職員の創意工夫により，記念事業を特別に考慮し，青少年の健全育成を更に推進いたしたいと思っております．

皆様方の御支援，御協力をお願い致します．

岐阜県博物館長　松尾克美

昨年度は「濃飛の甲冑展」「世界のコガネムシ展」「能面と装束」の3つの特別展を開催し，予期以上の入館者を得，特別展の重要な意義を再認識しました．本年も3つの特別展を企画していますが，大いに力を入れてゆきたいと思っています．なお，常設展示についても時代の問題をとらえ，新鮮さを保つよう資料調査収集に努力してゆきたいと考えます．他館各位の御指導と御協力をお願いします．

新年おめでとうございます

京都市青少年科学センター所長　清 水　栄

本年は当科学センター創立10周年に当たり，記念事業として開館以来今日までにセンター学習において開発された教材教具を，学校現場でも活用できる内容にアレィンジした「理科教材教具製作ハンドブック」の出版，並びに近年とみに関心の高まっておりますエネルギー問題をテーマとする特設展を企画しており，その実現に努力したい所存であります．同時に10周年を契機にセンター設立の理念であります〝科学者精神の理解体得〟に改めて思いをいたし，諸事業の見直しをはかり，理念の具現に奮起する年となることを念願しています．

佐賀県立博物館長　松 崎 利 彦

昨年は5月に科学者としてのレオナルド・ダ・ビンチ展を開催して好評を得ました．今後も機会あるごとにこの種の展示会を導入して，地域社会の要望に応じたいと考えております．本年は開館10年目にあたりますので，すべての面で脱皮して，新しい時代に即応した博物館活動を目指して努力する覚悟です．会員の皆様の御協力と御支援をお願いいたします．

逓信博物館長　河 野 祐 親

国民の学習，憩いの場として，すなわち国民と共にある博物館を目ざし，度々足を運んでいただけるよう常設展示場の計画的改装を始め，毎月1回開催の特別展示会等をより皆様に喜んでいただけるものにしたいと思っております．

また，全国の郵便局を窓口として郵政文化の普及に資する展示会開催等，48年から始めた「逓博パネルセット」による館外活動の一層の充実をはかっていく積もりです．

本年もよろしくお願い申し上げます．

天文博物館五島プラネタリウム館長　鏑 木 政 岐

昨年暮1週間程，休館してドーム内天井の塗装工事を完了し，写す星が，一段と美しくなりました．なお昭和53年度事業の一つとして展示の更新「活動する太陽」模型を目下業者に製作依頼中であります．3月末までに完成の予定でありますから，完成の暁には，どうか御一見のうえ，御批判を仰ぎたいと思います．

また，昨年9月解説員が1名退職しましたので，3月頃までには補充したいと考えております．もし，候補者がおられましたら，ぜひ御推薦賜りたいと思います．よろしくお願い申し上げます．

電気通信科学館長　白 根 禮 吉

開館4年目の新年を迎え今年こそはと特に目新しい抱負がある訳ではありませんが，日進月歩といわれるエレクトロニクスを中心とする電気通信科学技術を専門に取り扱う当科学館としては，従来にも増して展示品の陳腐化，展示演出のマンネリ化を防がなければなりません．

情報化社会といわれてすでに久しくなりますが，実は宇宙通信や光通信（レーザー）など画期的な情報メディアは，まさにこれから実用化に入ろうとしています．昨年試行運営を開始した創造コーナーやテレコムクラブの充実，さらにコンピュータ実験実演コーナーの新設等，当館の特徴を生かしながら，学校教育とも連携して社会教育施設としての機能の充実を図りたいと考えています．

東京都児童会館長　村 上 七 郎

都会のこどもたちが生きた自然に親しむことは困難である．本館の「自然のパノラマ〜森の一日」は，この課題解決への道筋としての展示計画である．今回の展示計画は，単に動植物をパノラマ風に展示するだけでなく，光・音・動き・映画等の手段や表現方法を用いている．それは，できる限り〝森〟の臨場感をつくり出し，さらに〝森の一日〟を演出することによって，①こどもたちの自然に対する関心や興味を喚起し，②自然保護の必要性を理解させることを狙いとしている．3月下旬オープン予定の待ちかねる夢の実現である．

東京農工大学工学部附属繊維博物館長　金 子 六 郎

羊の年です．羊はウールを人間に供給してくれ，その繊維の構造は，研究すればする程精緻を極めたもので，合成繊維などは足もとにもおよびません．自然のからくりの偉大さと人間がいかにその偉大さに学んできたかを今年のテーマの一つにしたいと思います．

今年当館は改修工事にかかる予定です．秋頃新装開館になる予定でいますが，工事期間中も友の会・講演会等の活動を活発に継続するつもりです．

内藤記念くすり博物館長　青 木 允 夫

アメリカの国立歴史技術博物館との資料交換展示は，当館では昨秋から，ワシントンではこの月末から開催されます．さらに今春はパリーのパストゥール博物館から資料の提供を受け，パストゥール展を開催します．

健康科学に貢献する博物館として，セルフメディケーションの展示場開設に引き続き，今年は，人と疾病との闘いの歴史をつづった映画も作りたいと思っています．

新年おめでとうございます

農林水産省蚕糸試験場長　福田紀文

絹には長い歴史と伝統があるが，その生産技術は時代と共に著しく進歩している．養蚕についてみても葉摘み屋内飼育から条桑屋外飼育へと移行し，さらに稚蚕を人工飼料で飼育するようになり，養蚕のイメージは全く一新されようとしている．

蚕糸技術を担当している当場は，明治44年に現在地に設立されたが，昭和54年度中には筑波研究学園都市に移転することになっている．

関係各位の御支援をお願いいたします．

山口県立山口博物館長　末冨義明

4月に県立山口美術館が発足，当館の美術部門のうち近代以降がそちらに移管されるので当館の自然系部門のウェイトが重くなります．華やかさは減じますが，調査研究の充実と展示の刷新により重厚着実な博物館にしたいと思います．

大正6年以来の入館者を調べてみると昨年末で約430万人を数え，山口市11万，山口県160万の人数から考えると，今更のように県民の期待の厚いことと使命の重大なことを痛感します．

龍河洞博物館長　原　健夫

龍河洞博物館は，洞内で発見した，弥生式土器及び考古学資料，並びにその他の資料を，多くの人々に公開するため，昭和34年に設立されました．その後老朽のため47年に古代建築様式をとり入れた，鉄筋2階建て冷暖房完備の新館に改築，また館の入口には，龍河洞開発の恩人，山内浩先生の寿像を建て，外観内容とも一新し，年間100万人の観光客を迎えるのにふさわしい，近代博物館として頑張っております．

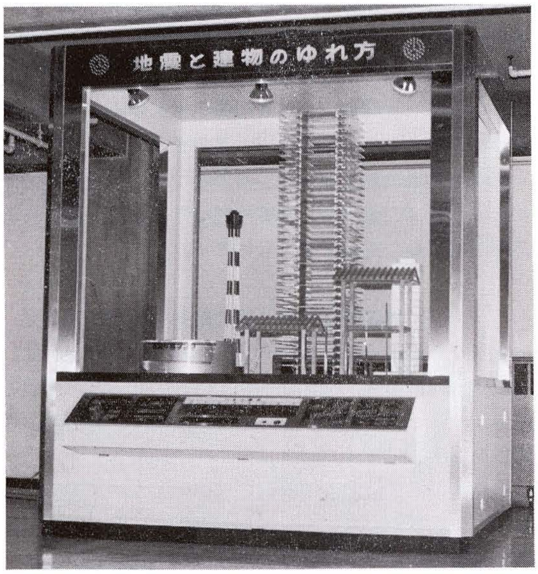
労働省産業安全研究所長　川口邦供
（産業安全技術館）

産業安全技術館は産業安全研究所に付設されており，研究成果を広く一般に公開し，安全思想，安全技術，知識の普及を図ってまいりました．最近は安全技術情報に対する需要が著しく高まってまいりましたので，昨年，マイクロフィルム自動検索装置を導入して情報提供活動の充実をはかりましたが，本年はさらに「安全技術情報コーナー」を新設して情報サービスの円滑化をはかりたいと思っています．

【新しい展示品】

地震と建物のゆれ方

神奈川県立青少年センター



このたび当館は「地震と建物のゆれ方」を設置した．この実験装置は地震の時，我々が利用したり住んでいる建築物がどのようなゆれ方をするのか，特に共振現象をそれらの模型をゆらせて科学的に解明するものである．

この実験装置の特徴をあげると，機構面では，

① 振幅を小さくし，振動数範囲を大きくして多くの共振を起こすことができる．

② 振動数の変化が手動・自動の二とおりででき，通常は自動で実験を行い，特定の振動状態を見るときは手動に切り換えて調整できるようにしてある．

③ 自動の場合は，連続運転による無駄な損傷を避けるために1回の実験ごとに休けい時間を設け，次の演示までの待ち時間をデジタル表示してある．

④ 各模型はユニット化した基盤に取り付けてあり，取り替え，配置替えができるので，来館者の希望による実験も可能である．

また，建築模型の展示物では，

① 高さ1.5m，重さ40Kgの高層建築模型（側壁はバネ鋼）
② 直径50cm，高さ20cmの石油貯蔵タンク模型（プラスチック製）
③ 高さ1mのタワー模型（真ちゅう製）
④ 柔らかい地盤に建てられた剛な建物模型
⑤ 日本家屋（ヒノキ材）
⑥ 地震計の模型
⑦ 共振板（燐青銅製）

などがある．

ここで実験される建築模型の中で，特にゆれ方で注意したいのは高層建築と石油貯蔵タンクである．高層建築はこの実験装置の振動数範囲では2つの共振があり，低い方の振動数のところで共振したときは非常に大きくゆれ，実際に地震が起これば被害大であることが予想される．石油貯蔵タンクは，低い振動数のところではあまり変化がないが，高い振動数のところでは中に入れた液体が踊るようにゆれ，タンクの強度等が問題となってくる．また，建築物ではないが共振板のゆれ方も考えさせるものである．振動数が高くなるについて，周期の異なる5つの共振板が周期の長いものから短いものへ順次共振して大きくゆれるのが観察できる．これは共振現象を理解させるのには適した実験であると思われる．

このほか，地震発生のメカニズムについての説明パネルや過去の地震発生状況をあらわす地震発生分布図などを展示してある．

この地震実験装置が地震に関する知識の普及だけでなく，防災意識の高揚にも役立てば幸いである．

【外国の博物館】

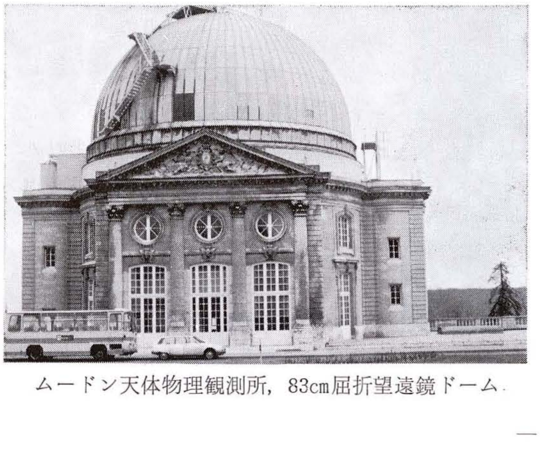
開館満20周年記念ヨーロッパ天文施設見学ツアーについて (2)

天文博物館五島プラネタリウム　小 田 泰 正

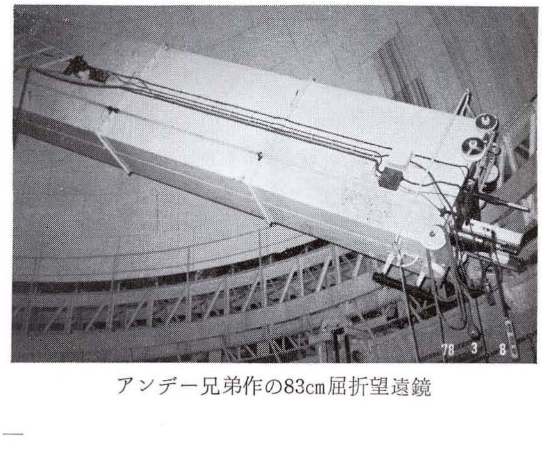
4月8日朝，ロンドンを立ってパリ空港に昼ごろ着いた．早速モンパスナスのレストランで昼食をすませ，当日の見学予定のムードン天体物理観測所を訪問した．ここはパリの西南に当たり，ベルサイユ宮殿に行く中間位に位置する小高い丘陵で，隣接地は市民公園になっており，パリの街が一望できる．

到着するとDr. セルバ・ジャン氏に迎えられ，最初に太陽塔望遠鏡に案内された．高さ約20m位のキノコ型をした真っ白な建物である．扉のないエレベーターで屋上に昇り，シーロスタット望遠鏡を見学した．普通，望遠鏡というと固定ドームの中にあって，開口部だけが移動するのが多いが，これは少し変わっており，お椀を伏せたようなドーム全体が，2本の支柱により，モーターで移動する仕組みになっている．床は木製の寄せ木で，少しでも太陽の熱をさけるように工夫されている．次に地上にあるシーロスタット望遠鏡で黒点観測を実施している所に案内された．こちらはぐっとスケールが小さい望遠鏡で，移動小屋の中にあり，レールが付いている．小屋を手で移動すると望遠鏡が現れる仕組みである．100年間も連続して太陽黒点の写真撮影を行っているという．研究者から説明を受けていると急に太陽が雲間から現れた．急きょ説明を打ち切って写真撮影を開始した．ヨーロッパは大変晴れる日が少ないので，僅かな時間でも貴重なのだと説明を受けた．

次は60cm反射望遠鏡を見学し，最後にアンデー兄弟の作でアントニアジが使ったという歴史のある83cm屈折望遠鏡を見学した．これはヨーロッパ最大の屈折望遠鏡だそうで，木製の筒が2本重ねられ，いかにも古めかしい



ムードン天体物理観測所，83cm屈折望遠鏡ドーム



アンデー兄弟作の83cm屈折望遠鏡

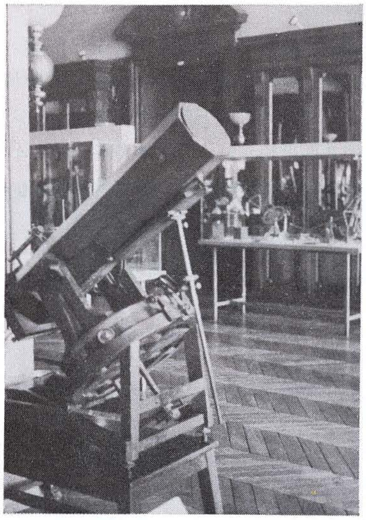
感じがする．しかし手入れは大変行きとどいている．またこの望遠鏡のドームは，かつてフランスの古城であって，第二次世界大戦の折に両サイドをドイツ軍の爆撃機で失ったそうである．

なお，この建物の一室には国際天文惑星センターが置かれ，世界中から集まってくる惑星の観測データーを整理保存している．その一部を披露していただいたが，大変御苦労の程がしのばれる．これで一日の日程を終了し我々一行はバスでパリ街のホテルに帰った．

翌9日は最初に旧パリ天文台を見学した．この天文台はロンドンの旧グリニッジ天文台より8年も古い歴史を持っており，門を入るとルベリエの立像が天文台通りに向かって立っている．ここはかつて世界標準時，本初子午線を定める際イギリスの旧グリニッジ天文台とあらそい，世界各国の投票によって敗れたそうである．世界の趨勢が英国にかたむいていた時期であったのであろう．

入口を入ると両サイドに木製の大砲のような形をした古めかしい反射望遠鏡が置いてある．これはレオ・フーコーが造った歴史ある望遠鏡だそうである．次に2階に案内された．大理石の階段を昇っていると，手すりが非常に変わって見えたので，ちょっとさわっていると，この階段はナポレオンの大変お気に入りの階段であったと説明してくれた．

2階のフロアーは，古い観測機器がガラスケースに展示してある．きれいに手入れされ，塵一つない程磨かれている．しかし物は大切に保存展示しているが，これ等を研究調査するための人がいないと説明してくれた．展示の中にはカシニの土星，木星のスケッチノートも並べてあった．私の特に印象に残ったのは，メートルの原器が3種類3本展示してあるケースであった．



旧パリ天文台，展示室

不定時制時計（旧パリ天文台）

また，一番奥の部屋に万年時計というのだろうか，1710年に造られた，日の出，日の入り，星の出入り，月の満ち欠け，曜日まで現す事ができ，更に文字盤を季節によって替える不定時法を取り入れた，美術的にも豪華な時計を見学した．修理保存して動くだけ動かしておくのだそうである．なお，従来日本の江戸時代に造られ，不定時法を採用した和時計は，日本だけのものと考えられていたのはあやまりかも知れない．

更に3階に上ると，かつてフーコーが地球の自転を実験証明に使用した天井の穴と床の南北の線がそのまま残されている．片隅では反射鏡の研磨作業を行っていた．

なお，この天文台は非公開で，郵便で申込を受けつけ土曜日半日だけ公開するそうである．

昼食後，パリ発見宮を見学した．タルトア氏に挨拶をし，ウーデノ氏の案内で天文に間係あるコーナーを見学することにした．最初にプラネタリウムの投影を見学した．あまりスライド等は使わず，基礎的なことを丁寧に解説していた．解説者は5人で，1日2回から多い日は4〜5回投影を行うそうである，現在使用している投影機はドイツのカールツァイスの3号機で，4号機が現在倉庫に届いているが，取り替える予算がないのだという．きびしさを痛感した．次にロケット関係のコーナーに案内された．今まで世界で打ち上げられた人工衛星の模型が天井からたくさん吊り下げられている．ソ連の月面車ボストークの模型も展示してある．米国で持ち帰った月の石もフランスの国旗と共に展示してあった．天文の現象をパネルで図解説明してあるコーナーを通って一巡すると，コーナーの一部に椅子を並べた映写ができる装置のある所に来た．多分ここで講義が行われるのであろう．壁には，ずらりと火星，木星，土星のスケッチが採色して展示してある．アントニアジの自身の筆だと説明された．一同びっくりし，入念に見入った．何の覆いもなく，無造作に展示してある．見学者のしつけが良いのであろう，手を触れた跡もない．

見学を終えて出口の方に向かう途中，静電気の実験を行っているコーナーにぶつかった．大勢の学生がテーブルを囲み一人の学生が実験台の上に立たされ，正に佳境に入っている雰囲気であった．この館は各コーナーに必ず実験コーナーが設けられ，時間を定めて一日何回か実施している．

ロンドンでは非常にたくさんの貴重な実物を展示解説してあるのに対して，いかにも対称的な印象が忘れられない．

会 員 館 園 の 紹 介

鳥 取 県 立 博 物 館

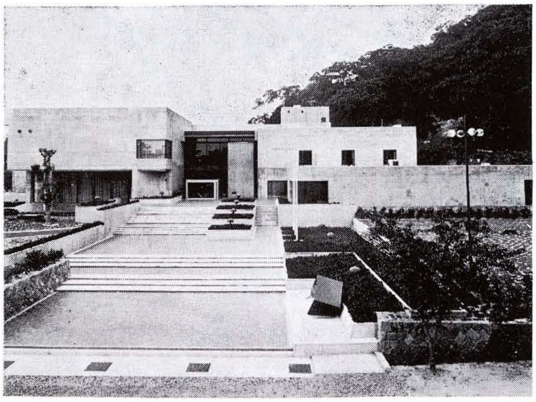
鳥取県立博物館は，県都鳥取市の歴史ある史跡鳥取城跡の一郭に位置し，昭和47年10月，近代建築の粋を誇る立派な総合博物館として開館した．この博物館は，昭和24年自然理工系を主として設置された県立科学博物館に始まり，当時の地学・生物・考古・民俗の分野に新しく美術と史料を加えた総合博物館として新生したものである．

開館以来毎年310日～315日開館して，常設展示をはじめ特別展の開催，講演会，講習・講座，映写会，野外観察会，自然と歴史を訪ねる会などの館内外における教育普及活動と幅広い活動を続けており，開館以来の利用者は実に95万3千余人（53年9月末）を数えるに至った．

ここでは紙数の関係があるので，特に常設展示に限って，その中で特徴的な資料又は展示についてその概要を紹介する．

地　学――基本的な関係資料を地質の年代に従って展示するほか，県内産の化石・岩石・鉱物をも展示して，郷土を日本全体の中でとらえる仕組みである．中でも日本海で採集されたナウマン象の牙，県内産のヒスイ原石，巨大な火山弾，人形峠のウラン鉱石などは，本県の地質を知るうえに貴重な資料である．

生　物――特異な生長を示す砂丘植物や動物の解説は，鳥取砂丘見学への知識として人気があり，中国山地の照葉樹林に動物剝製を配したジオラマ展示，特別天然記念物オオサンショウウオの生育過程標本と飼育展示などを行っている．また，館の背後の久松山を生息地とする天然記念物キマダラルリツバメ，発見された山の名をとった珍蝶ヒサマツミドリシジミの標本は，来館者の目を楽しませており，貝，昆虫，鳥獣魚類の標本コーナーは，小・中学生の生きた学習の場となっている．



考　古――県内出土の資料を縄文，弥生，古墳の時代順に展示しているので，学校の教材に活用されている．また，古代日本の東西文化圏の交錯する本県には，銅鐸，銅矛の出土があり，古鏡，勾玉，特別史跡斎尾廃寺をはじめ県内の古瓦を一覧できるように展示しているので，一般の方々だけでなく専門家の来館も多い．このほか鴟尾の復原模型，経筒，経瓦など仏教関係の資料を展示している．

民　俗――都市化の進むこの地方でも数多くの有形・無形の民俗資料が失われつつある中で，因幡地方特有の麒麟獅子（きりんじし）の舞，海女（あま）の習俗，因幡手漉（てすき）和紙の工程解説と用具，木地，絣機織（はたおり），漁業用具など都会からの観覧者に珍しがられ，室内の一隅に復元された江戸時代の農家と当時の農具，生活調度品は昔の生活を偲ばせ，郷愁を覚える人が多い．

美　術――新しく発足した分野だけに館蔵の資料は少ないが，鳥取藩絵師の土方稲嶺（ひじかたとうれい）をはじめ近代の洋画に至る代表作を中心に充実を図り，中でも前田寛治の名作「棟梁の家族」を収蔵したことは喜びである．

展示は古美術を主としており，県内の神社，寺院に伝世された仏像・仏画・書跡などであるが，中でも重文指定の三仏寺蔵王権現，銅鏡，長楽寺の仏像は仏教史研究上も貴重な資料である．その他個人から寄託されている藩絵師の絵画，工芸品も展示して本県の文化財を紹介すると同時に美術観賞の場としている．また，現代絵画についてもわが国の美術界で活躍した前田寛治・伊谷賢蔵・笹鹿彪などの作品も展示替えを行っている．

史　料――旧藩主池田家から県に寄贈された藩政資料1万数千点は，貴重な大名家文書として注目され研究者の利用が多い．また鳥取県史の編さんをはじめ県内市町村史編さん資料として広く活用されているが，近年郷土史研究が盛んになり，広く一般に利用されるようになった．その他藩士，在方の各家に伝えられた近世資料を主とする古文書類の調査収集を行っており，これらの中からテーマを決めて，関係資料にわかり易い解説をつけて一般向けの展示を年2回行っている．

所在地　〒680　鳥取市東町2―124
電　話　(0857) 26―8042
休館日　毎週月曜日，国民の祝日の翌日
年末年始

昭和53年度博物館職員講習終わる

本ニュース第43号でお知らせした国立社会教育研修所主催の昭和53年度博物館職員講習は，さる12月１日から21日まで行われた．連日，講師陣，参加者共それぞれ熱の入った講習が続けられた．参加者は39名で，そのうち全科協加盟館の職員は13名であった．

今回の内容は，社会教育概論，博物館学，自然科学史が取りあげられ，教育原理，視聴覚教育，生物学等は，翌年度に実施されることになっている．

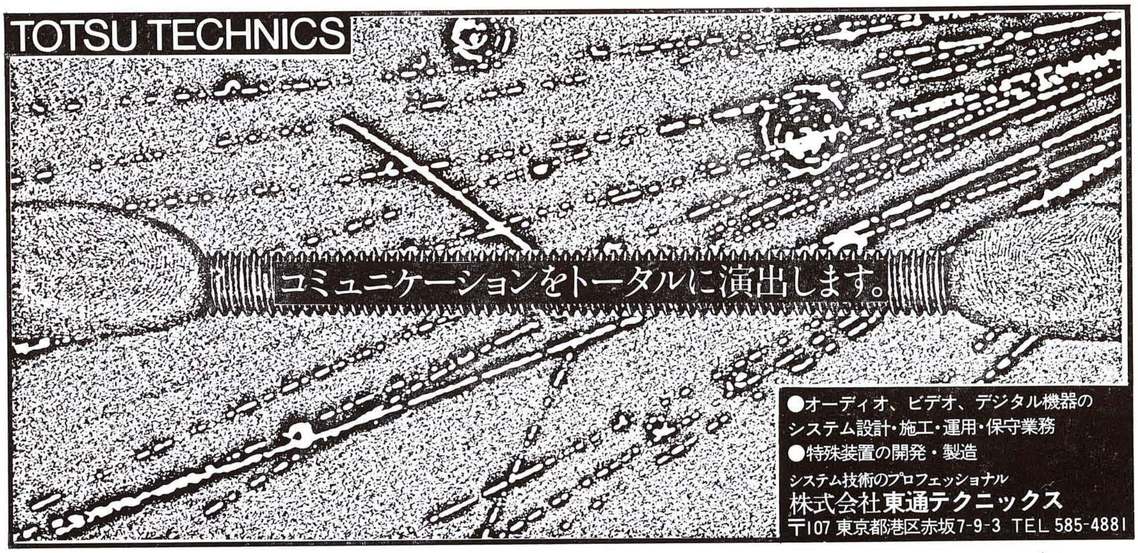
この講習は，全科協を中心とした現場からの要望によって実現した経過もあり，今後も会員館園の協力により博物館職員の資質向上のための研修の場となることが期待される．

第８回全科協博物館事業研究会のお知らせ

本年度も，全科協事業研究会を行う予定で，現在実施計画を進めております．今回は，シンポジウムの形式を取り入れて，科学博物館の今後の問題を研究してみたいと思います．期間は２月～３月の間に３日間を予定しています．計画が決まり次第お知らせしますので，多数参加してくださるようお願いします．

あ と が き

編集委員はじめ各会員館の御協力により，ニュースの発行日に追いつきました．今後は内容の充実へより一層努力したいと思いますので，積極的な御投稿をお願いします．次号掲載分の締切りは２月５日です．（事務局）



Display

株式会社　東京スタヂオ
本社　東京都豊島区駒込1－14－6 TEL 03・946・8241
TOKYO SAPPORO SAITAMA HAMAMATSU TOYOHASHI KYOTO